

2年 地理

	ヨーロッパの工業	学習日 月 日	名前:
--	----------	---------	-----

【イギリス】

18世紀 世界初の(1 産業革命)

<蒸気機関、軽工業>

→ 「世界の工場」となる

19世紀後半 第二次産業革命

<石油と電気、重化学工業>

→ アメリカ・ドイツに後れを取る

第二次世界大戦後

社会保障制度の充実

→ 産業の競争力が失われる

<イギリス病>

1980年代 サッチャー首相の新自由主義

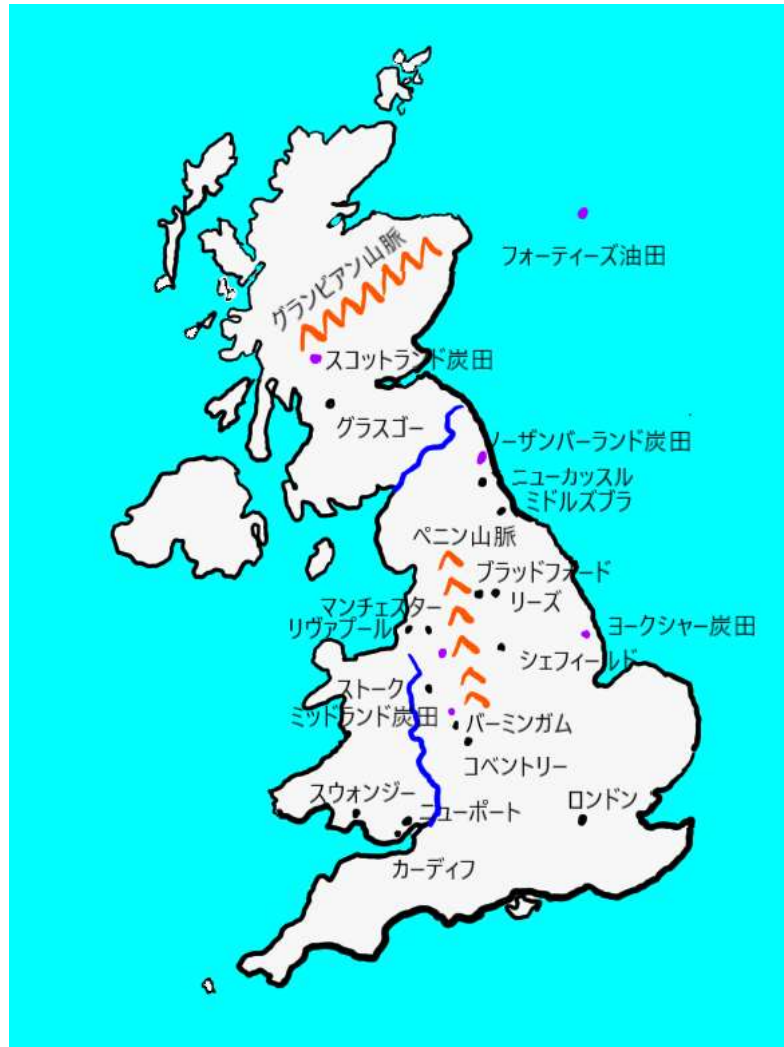
→ イギリス病の克服

① ランカシャー地方 ランカシャー炭田を中心に発達 (2)… 綿工業 (3)… 港町(現在は造船) ※ ペニン山脈の西側で、偏西風がペニン山脈にあたるときに降水。湿度が高いので、綿糸が切れにくい。
--

② ヨークシャー地方 (3)… 毛織物工業 ※ ペニン山脈の東側で降水量が少なく、牧羊がさかんになる。
--

③ ミッドランド地方 (4)… バーミンガム鉄山とミッドランド炭田によって鉄鋼業が発展

④ ロンドン (5)… イギリスの首都、知識集約型産業がさかん、s金融街(シティ)



⑤ スコットランド (6)… スコットランド炭田を中心に綿工業・造船が発展 エディンバラ … スコットランドの首都、出版印刷

⑥ 北東イングランド ニューカッスル ミドルズブラ … フィンランドのエコフィスク油田からパイプライン、石油関連産業
--

⑦ サウスウェールズ サウスウェールズ炭田の石炭 カーディフ … 製鉄・機械
--

【ドイツ】

ルール工業地帯
 ヨーロッパ最大の工業地帯、内陸に位置するが、(7)の石炭と(8)の水運によって発展
 エッセン・ドルトムント・デュースブルクなどで鉄鋼業
 デュッセルドルフ … 外国企業の進出
 ゴーリンゲン … 刃物

② マイン・ドナウ運河
 ライン川の支流のメイン川とドナウ川を結ぶ運河。ライン川の水運はスイスのバーゼルからフランスとドイツの国境を流れ、オランダのロッテルダムの(9)=EU の玄関口で北海とつながる。一方、ドナウ川はドイツ南部から東ヨーロッパ諸国を通り国会へそそぐ。この運河によって東西ヨーロッパが水運でつながり、移動がスムーズになった。

【オランダ】

(9)… ライン川河口、輸入石油による石油化学コンビナート

【フランス】

パリ周辺に工業が集中。総合工業地域となっている → パリ一極集中
 近年は臨海工業地域も発達

(10)… かつてはこの地域で産出する鉄鉱石とザール炭田の石炭を結び付け、鉄鋼業がさかんだった。現在では鉄鉱石も石炭も輸入している。

臨海部にも鉄鋼業が発展してきた
 ダンケルク … ドーバー海峡に面している
 フォス … 地中海に面している

フランスは原子力発電がさかん(80%弱)

(11)… エアバス社の組み立て工場

ワインの醸造
 ブドウの産地に対応して特色あるワイン醸造業が発展
 シャンパーニュ地方 … ケスタの斜面を利用して栽培されたブドウでワインを醸造
 ブルゴーニュ、ロワール、ローヌなどの山地も有名

【スイス】

高い技術と品質の優れた付加価値の高い製品
 → ジュラ山脈東麓のヌーシャテルを中心に時計工業
 → チューリッヒやバーゼルに各種の工業

【イタリア】

(12)… 北部は工業が発展しているが、南部は農業が中心。よって、生活水準の高い北部に対して、南部は所得水準が低くなっている。現在、南部にも工業を誘致して格差を解消する努力が続けられている。

工業の三角地帯
 ミラノ・トリノ・ジェノヴァを結ぶ工業が発達した地域。工業の三角地帯という。この南東にあるのがパダノ・ヴェネタ平野
 (13)… イタリア最大の工業都市。古くから絹織物が有名でファッション関連産業が有名
 (14)… 自動車会社の企業城下町(フィアット)
 (15)… 地中海に面する貿易港。鉄鋼・石油化学

(16)=第三のイタリア
 ヴェネツィア・ボローニャ・フィレンツェなど。繊維・皮革・宝飾・家具など技術を持った職人、中小工業が多い地域で独自の工業的文化を持つ。近代工業中心の北部と農業中心の南部と区別する。

【ポーランドとチェコ】

国境をなすスデーティ山脈は古期造山帯で良質な石炭を産出
 → ポーランド側のシロンスク地方とチェコのボヘミア地方で工業が発達

